

子ども達の読書状況（静岡県読書推進会議報告から）

平成 17 年 2 月 18 日（金）に行われた「静岡県読書推進会議」で子どもの読書活動の現状に関する調査結果が報告されました。

平成 15 年度		1ヶ月の平均読書冊数 静岡県 (平成 15 年 6 月)	1ヶ月の平均読書冊数 全国 (平成 15 年 5 月)	不読者の割合 静岡県 (平成 15 年 6 月)	不読者の割合 全国 (平成 15 年 5 月)
		小学生	7.7	8.0	4.3%
中学生	2.8	2.8	7.6%	31.9%	
高校生	1.6	1.3	39.5%	58.7%	
平成 16 年度		1ヶ月の平均読書冊数 静岡県 (平成 16 年 4 月)	1ヶ月の平均読書冊数 全国 (平成 16 年 5 月)	不読者の割合 静岡県 (平成 16 年 4 月)	不読者の割合 全国 (平成 16 年 5 月)
		小学生	6.1	7.7	4.7%
中学生	2.7	3.3	7.1%	18.8%	
高校生	1.7	1.8	27.7%	42.6%	

2010 プランに関わるアンケート調査（平成 16 年 5 月、生涯学習企画課）、読書調査（全国学校図書館協議会）
不読者：1ヶ月間に1冊も本を読まない者とする

平成 15 年に比べ、小学生において読書冊数が減り不読者数が増えているのは、調査月が年度当初の 4 月であったことが影響したようにも思います。1冊の本を何度も何度も読むことを楽しむ子がいることを考えると、安易に平均読書冊数で「読むようになった、ならない」と判断することは出来ないように思うのですが、注目したいのは不読者の割合です。特に本県の高中生において 15 年度は 4 割近くの子もたちが読まなかったのに対し、16 年度は 3 割程に減っています。セカチュウ（世界の中心で愛を叫ぶ）の影響は静岡県においても大きかったのでしょうか。ただ、逆を言えばまだ 3 人に 1 人の高校生が、1ヶ月に 1冊も本を読んでいないということです。この子どもたちにどうやって本を手渡すチャンスを作るか、手立てを考えなければならないところです。

「赤い鳥」「子どもの館」「飛ぶ教室」

...いま、子どもの本を考える視座というものが、大きく変わっているのは自明です。

わたしたちは、そうした状況の変化 ひろがりとかかりを見ずえて、子どもの本と教育の現場、大人と子ども、いわゆる大人の文学と子どもの文学といったいくつかの世界にまたがる視野から、新しい児童文学の総合誌の創刊を考えました。

飛ぶ教室・創刊のことば より

1981年にスタートした雑誌「飛ぶ教室」が休刊したのは1995年のことでした。FINAL創作特集号の中には、編集委員の河合隼雄氏の「豊かな日本などと言って、豊かな物で子どもの心を圧迫しながら、片方で雑誌ひとつ継続できない日本の社会はどうなっているのか。」が紹介されていました。子どもと本を結ぶ活動をされる多くの方の中にも、当時、残念に思われた方は少なくなかったと思います。

その「飛ぶ教室」が復刊します。出版社（光村図書）に確認しましたところ4月下旬から5月上旬にかけて発行できるよう、準備を進めているそうです。

コノ星二八 本ガアル...

2005・第47回「こどもの読書週間」は4月23日（土）～5月12日（木）です。この読書週間は昭和34年に第1回が実施されてから今年で47回目を迎えます。今年の標語は「コノ星二八 本ガアル...」です。

4月2日：子どもの本の日

IBBY（国際児童図書評議会）により、アンデルセンの誕生日であるこの日が子どもの本の日と制定されました。毎年美しいポスターとメッセージを制作し、世界中に子どもの本の充実を呼びかけています。

4月23日：子ども読書の日

2001年12月に公布された「子どもの読書活動推進法」第10条2項に規定されています。全国で子どもの読書活動を盛り上げる活動が期待されます。

イベント・講座情報

子ども読書の日・特別講演会

日時：平成17年4月23日（土）13:30～

講師：長田弘 氏（詩人）

演題：「子どもの本の世界の言葉」

問合わせ：静岡県立中央図書館 054 262 1246